

早期改善を目指す構音指導のプログラム（基本）

「構音」を媒介にして、指導対象児・者と指導者が楽しめる関係
〔通室毎のこの子ども〕 = 〔共同作業としての構音の改善〕

- I 指導開始音の(初めに指導する誤り音)の選定
- II その音と言える(音づくり⇨初回から4回目までの指導をメド)

1. 目的音が出せる

- 方法;指導対象児・者と対面しての口形、舌の動き、発声・発語の模倣
指導対象児・者への名称;「べろのまねっこ」「へんな音のまねっこ」
「英語のまねっこ」「お口のまねっこ」等々
- 注) 目的音の子音が簡単に出たからといって、指導者が驚いたり喜んだり、大げさに指導対象児・者を褒めたりしない!

2. 誤り音の意識化

《 指導対象児・者の誤りを肯定しつつ、誤りを自覚させる方法 》
あくまでも「ゲームのルール」として、×にする

- 模倣した音での判断【○;じょうず, ×;ちがう・へた】
- 舌の形状での判断【○;きゅうりべろ, ×;ぶたべろ】当等
- 注) 指導者の提示する [tʃ] を、指導対象児・者が『ち』と認識して模倣し側音の [tʃ] になった場合「【ひらがなの『ち』を書いて) ~～さんのは『ち』だね。~～さんは『ち』って上手に言えるんだよね。でも、([tʃ]を書いて) 今のまねっこは、『べろのまねっこ』の[tʃ]なんだよ。」と言って、指導対象児・者の誤りを否定しない。【言い方は、指導対象児・者の年齢や性格等に応じた表現にする!】

※ この段階で自己修正できそうな指導対象児・者には、自己修正の利点をゲームなどで実感させる!

3. 模倣できるようになった構音への意味づけ

※ 導入の時期;「変なべろのまねっこ」などの名称での模倣であれ、最低、子音レベルで目的音が出せるようになってから!

- 誤りの自覚がない場合;例「べろのまねっこの [tʃ] ってね、本当はね『ち』なんだよ」
注) 『ち』をイメージした瞬間に、「あんなに [tʃ] が上手に言えるようになったのに」と思えるほどの [tʃ] であっても、側音の [tʃ] に戻ることがある。その場合、「今までは、言えていたはずだから…」と正しい音を出そうと焦らない!
- 誤りの自覚がある場合;「今のが、『ち』なんだよ。」

4. 自己修正の導入

※ 導入の時期;「ちいさいの『ち』のイメージ」で [tʃ] と言える
注) 訓練としては扱わない! 自己修正の利点をゲームなどで実感させる!

III 会話への般化の手続き《概略》



IV 機能的構音障害としての『終了の判断の基準』は、『日常会話での改善』のみ

- ★ 何気ない会話・喜怒哀楽での思わずでの発語・夢等々 無意識での発語での改善
- ★ 「どの程度改善したら…終了?」の考え方は、捨てましょう!
例「構音を意識しながら読んだり発言ができる」では、終了にははいけません! 特に、側音化構音では!
- 特に、舌の状態(形態・動き)を正確に把握 ⇨ 舌の脹らみの消失・下顎の偏位の消失
- 聴覚での判断では、「空耳・マガーク効果」に要注意

いつでも・どこでも正しい構音で話ができる

早期改善を目指す構音指導のプログラム（留意事項）

《 指導対象児・者に や・さ・し・く、効率的に日常会話への般化を促す構音指導 》

- ◎ 構音の指導は、指導の段階に沿って丹念に進められるのが良いわけではない！
- ☆ Ⅲの段階からは、常に『いかに日常化するか』を考えて指導
- ☆ 但、ある段階の指導を行う際は、徹底した指導を行うこと
- ◎ 指導対象児・者の構音の状態を随時・的確に評価し、構音の状態に呼応するように進めるのが早道
- ◎ 指導が、25回を超えそうな場合（5・6回目には判断）は、丹念に計画的に進める

| | | |
|-------------------|--|---|
| I | 舌の動きの模倣：『何をどうまねるか』の意識化⇨幼児には、「べろのまねっこ・お口のまねっこ」等々馴染みやすい名称で | |
| II 子音 | (1) 指導開始音の選定：kj系[ki・ke・kj・gi・ge・g j]から？ tʃ系[ʃi・ʃ・ʃi・ʃ・ʃi・ʃ]から？ | |
| III 単音節 | (2) ^{※1} 子音づくり（ ^{※2} 誤りの自覚化） | 『〇〇〇のまねっこ』などの言い方は、指導対象児・者の年齢や性格等に応じた表現にする！ |
| IV 単語 | (1) ^{※1} 単音節づくり（ ^{※2} 誤りの自覚化、 ^{※3} 意味化） | |
| | (2) 単音節 | 表情をつけて《イントネーション・アクセントの変化、感情的な表現 等々》 |
| | (3) ^{※4} 続けて 模倣 ⇨ 自発 | ① 単純な繰り返し ② リズム《表情をつける；怒ったように・楽しそうに・会話のように等々》 |
| V ※5 1単語語頭 | (1) 単純模倣 ⇨ 自発 ⇨ 表情をつけて《イントネーション・アクセントの変化、感情的な表現 等々》 | |
| VI ※6 2単語語頭 | (2) ^{※6} 続けて 模倣 ⇨ 自発 | ① 単純な繰り返し ② リズム《表情をつける；怒ったように・楽しそうに・会話のように等々》 |
| VII 3単語語頭 | (3) 句 | ① 共通語的な表現での模倣 ② アクセント等の変化・方言化《会話の様々な表情で》 |
| VIII 4単語語頭 | (4) 2～5語文 模倣 ⇨ 自発 | ① 共通語的な表現での模倣 ② アクセント等の変化・方言化《会話の様々な表情で》 ③ ひっかけまねっこ《「～～好き？」「誰と来た？」など答を言いそうにさせる》 |
| IX 5単語語頭 | (1) 1単語ずつの単純模倣⇨自発⇨表情をつけて《イントネーション・アクセントの変化、感情的な表現 等々》 | |
| X 6単語語頭 | (2) ^{※6} 続けて 模倣 ⇨ 自発 | ① 単純な繰り返し ② リズム《表情をつける；怒ったように・楽しそうに・会話のように等々》 |
| XI 7単語語頭 | (3) 句 | ① 共通語的な表現での模倣 ② アクセント等の変化・方言化《会話の様々な表情で》 |
| XII 8単語語頭 | (4) 3～6語文 模倣 ⇨ 自発 | ① 共通語的な表現での模倣 ② アクセント等の変化・方言化《会話の様々な表情で》 ③ ひっかけまねっこ《「～～好き？」「誰と来た？」など答を言いそうにさせる》 |
| XIII 日常化へ | (1) 文の音読・朗読 | ○ドリルブック ○低学年⇨学年相当の教科書 等々 |
| | 自由な文づくり | ○絵カード神経衰弱による『面白文づくり』 |
| | (2) 廊下で・待合室で・昇降口・駐車場等々で ⇨ 様々な場面・機会 | |

終了の判断 ◎ 特に側音化構音の場合、構音運動（舌の脹らみ・顎の偏位の消失）で判断すること！
 ✕ 発音での判断は、しない。「どの程度きれいになったら」という基準は、ない！

- ※1：「英語のまねっこ」「変な音のまねっこ」等々、指導対象児・者が親しみやすい名称をつける。
- ※2：「誤りの自覚化」は、原則として正しい構音（単音節）ができてから導入することが望ましいが、指導対象児・者によっては、子音の段階で気づくことがあり、その場合は、その時点で誤りの自覚を促してもよい。
- ※3：「意味化」は、「～～のまねっこ」で正しい構音ができてから導入する。「[チーズ]の[ち]だよ。[ち]って言うてみて」等の指示で正しい構音になれば、「～～のまねっこ」から『[ち]の指導』へ移行する。
- ※4：例えば、「ち・ち・ち」と区切って言わせるのは、『続けて』ではない。
- ※5：1つの単語の語頭で、(1)から(4)までを指導する。例えば、(4)②の段階で「かわいい キツネば 見たごどあるんだ」などでも[kj]が言えるようになった時点で、語頭で練習する単語を増やしていく。
- ※6：例えば、「きつね・きつね」と区切って言わせるのは、『続けて』ではない。『3回続けて』の場合、「きつね きつね きつね」の様に、[ne]と[kj]が切れ目なく連続（調音）して初めて『続けて』になる。従って、単語の語頭であっても2回目、3回目の[kj]は語中の扱いになる。『続けて』の言わせ方を工夫することによって、「語頭」の練習から「語中」の練習へと自然な形で移行するようにしていく。



参考：構音指導効果の般化の様相と構音指導プログラムについて — 側音化構音障害の構音指導を中心に — 【R17】